

平成 27 年度 国立中央青少年交流の家

若者たちが企画する

富士のさと わくわくキャンプ ②子ども編

平成 28 年 2 月 5 日 (金) ~ 2 月 7 日 (日) 2 泊 3 日

○目的

ボランティア養成研修の参加者等が身につけた内容を、子供対象のキャンプで実践しスキルの向上を図る。

○本事業の仕組み

当所で養成したボランティアを中心に子供対象のプログラムを企画立案し、当日の運営をする。



【運営に関わったスタッフと参加者】

○キャンプの企画立案

立候補のあった 35 名のボランティアと実習生が企画メンバーとなり、企画立案を進めた。

各自に担当を割り振り、お互いにメール等で情報共有しながら、以下のことを行った。

- ・プログラムの選定、構成
- ・プログラムデザインシート、グループデザインシートの作成

※手順や目指すグループ像、安全管理などを記載

- ・全体進行表の作成
- ・実地踏査の実施 等

富士のさと わくわくキャンプ(子ども編)

プログラムデザインシート

作成日:平成27年 2月 5日
企画者: 佐藤 さん等4名

●プログラム名
冬の技術王決定戦!!! (★) / 季節外れの大会 (★)

●基本情報
○目的 (目的の達成)
・参加者の心身両面により自然の美しさを感じてもらうこと。外に出て自然と触れあう楽しさを味わってもらう。
・ほめて褒めてやり遂げる達成感を味わってもらう。コミュニケーション能力、社会性、積極性、互助性を養う。
・身体活動のすばしこさにより、身体でいろいろなことを達成する一環からストレスからの解放や自律の達成

○対象者/目指すゴール (参加者の心身両面が育ちあふれたら成功！)
・4~6年生
・参加者の成長、役割に習いこんでいる事

○開催
2月7日 午前9時~12時
の陣・兵庫 (大塚野原)
観覧の日: 雪が止んだら 天候の良い日 空気の澄んだ日

○運営者 (人員、役割)
いしのみやん、こーちゃん、Kaito、もも、まっちゃん、クレバ、若原
○準備 (参加者のアイテム)
観覧の日: カメラ、スコップ、季節の手袋、チョウ、せり、防寒バッグ、黒靴
子どもたちの持ち物: 手袋、防寒靴、水筒、タオル
運営側の持ち物: 防寒グッズ、補助的用具、ひも (コトを作る)、セブス、ドックペー、旗、ホワイトボード
子どもたちの持ち物: 水筒、手袋、防寒靴、タオル

●リスク・安全管理
想定されるリスク
準備
ケガ
火災
盗難
その他
その対応方法
手袋を履かずに凍傷や怪我を防止しようとする
保護者、早朝検閲、長袖シャツの着用
防火注意、区画の1/3での準備検閲、防火の準備
連絡の確保

グループデザインシート

作成日:平成27年1月24日
企画者: 中村 さん

●どんなグループカンセツを想像する? (個人で)

○役割/イメージ
・子どもと一緒に、「想像の具現」のできるカンセツ
・参加者「全員」が、楽しかったと思えるように。
・高次元のグループ活動を生かせるカンセツ
○目標
・子どもたちがこのメンバーでやって良かったと思えるようなキャンプにすること。
・他のスタッフを応援すること。

●グループについて

○対象者/目指すゴール (参加者の心身両面が育ちあふれたら成功！)
・4~6年生の参加者全員が参加することである。
→ 思いがけず集まる。ありのままの個性を、認めあえるグループになる。
→ 「楽しんだね」「お疲れだね」がグループを褒めてくれる言葉。
→ このグループで活動できて良かったと思えるグループにしたい。
○目的
・参加者が楽しかったこと、思い出に残るようなことである。
・参加者が思いが、上手くコミュニケーションを取ることが出来る。
○二人の役割・協力
・リーダー・副リーダーは決める。状況に応じて役割を分ける。
・子どもたちのペースに合わせる。子どもが得意な活動は積極的に参加させる。
→ 役割を分ける。賛成、反対する機会を確保する。
・参加者と関わり合う。同じ目標に向かって行動するリーダーを1人作る。
○仲間の活動する姿に気づいてもらおう (内容や準備など)
・グループで気づいてほしい活動を行う。活動が楽しくなるように。
・初日、グループ全員がみんなの名前を覚え、名前を呼べるグループにする。
・参加者の中で、役割分担を行い、一人一人がグループの一員であることに意識を持ってもらう。

●安全・安全管理
想定されるリスク
ケガ
火災
盗難
その他
その対応方法
・災害発生時、必ず連絡を、活動中に参加者に確認方法、注意点を説明する。
・参加者が気づき合っている状態は、どちらかのリーダーが、見て必ず確認しておくようにする。

【企画メンバーが作成した企画書】

○キャンプ当日の運営

当日の運営は、実習生 5 名を新しく受入れ、総勢 40 名 (ボランティア 30 名、社会教育実習生等 10 名) が担った。スタッフは前日から宿泊し準備や試作、最終的な打ち合わせをして参加者を出迎えた。今回の参加者は近隣 4 市町の小学 4~6 年生 35 名であった。

初日【2月6日(土)】



《はじめの会》
はじめまして! 元気よく!



《課題解決ウォークラリー》
問題の答えは「2」!



《結果発表&表彰式》
班員とよく協力できました。



《豚汁づくり》

野菜はこの切り方で良いかな？



《炊き込みご飯づくり》

火加減が難しいな、トホキ。



《楽しい食事タイム》

スタッフも班の子と一緒に。

2日目 [2月7日(日)]



《グループごとに雪像づくり》

色々な作品ができました。



《定番のソリ遊び》

勢いよく行くぞ~!



《おわりの会》

班の代表から嬉しい感想。

《参加した子供の声》

- ・ 最初は緊張していたけど、交流などを通してみんなと仲良くなることができました。本番のずっと前から楽しめる遊びを考えてくれてありがとう。
- ・ 班のみんなと夕食を作ったり、雪遊びをしたり、ウォークラリーをしたことが面白かったです。
- ・ 楽しく過ごせて、とても良い思い出になりました。やさしくしてくれてありがとうございました。
- ・ 面白い経験ができました。

(その他、感謝の言葉がたくさん!)



○キャンプを終えて

《企画メンバーの感想》

- ・ ボランティア養成研修の参加者からスタッフという違う立場に変わり、最初は不安だったが、仲間と話し合い様々なことを企画運営することができた。
- ・ 子供たちと楽しい時間を過ごすためには準備がすごく重要で、運営側として常に全体を見てその場面の行動ができないといけないと強く感じた。



《成果と課題》

今回、9月の家族編にも参加したボランティアの参加があり、ステップアップになっていることが確認できた。今後はさらに目的の違う事業への参加を促したり、自主企画の推進をしたりすることでさらにボランティアの成長に寄与できればと思う。また、施設としてボランティアたちの積極的な参加意欲に応えるために大学生等の活躍の場となる、さらなる事業の開発や受入体制の検討が必要である。